

この修了制作は、淡路島での洋服店の設計をめぐる、「見慣れすぎて見えていないもの」をそのままにしておくためのひとつの試みです。



店舗兼住宅の設計

私は、淡路島東浦を舞台に、街の観察と建物の設計を行なった試みを行いました。敷地は兵庫県淡路市東浦、施主は子供服屋を営む母で、店舗と夫婦のための週末住宅の実施設計です。



どこにでもあるような街、淡路島東浦  
この地域には、環境を活かして生まれたり養殖業や玉ねぎ産業、人為的文脈でできたサンヨー電気開連の工場、明石海峡大橋というインフラ整備によってできてきた宅地といった、様々な背景をもつ風景が入り混じっています。それは一見特徴がない、どこにでもある郊外のように思います。  
しかし、沢山並んで一つを見ていると、それぞれに個性があるのが面白いのが印象的です。一根に「ここにでもある」とは言えないような気がしてきます。



街の生々しさ「カケラ」

このような、一見どうめのないものでも一つの言葉では言い表すことが難しい様子が、街の生々しさをもたらしているのではないかでしょうか。そこで、街にある異なるスケールや目的を持つ風景を「カケラ」と名付け、全てに等しく価値を与えるように試みました。



カケラ=形態+意味

また、「カケラ=形態+意味」という定義を用いました。私は、街を観察して得たカケラを概念として扱い、それを組み合わせて設計を行なっています。設計を通じて生まれた新しい意味(用途や質)は、新たな形態として街に現れます。そして、住民の目に風景として映った時、「なんかうう」といった違和感が起るような、街の建物を作りました。



個別のスタディ

「カケラ」には、スケール、構造物や色、素材など様々な観点が重なり合って含まれています。組み合わせを行う際、それぞれのカケラに合わせた観点によって、スタイル方法を判断し選択しました。



カケラによって変わった設計の手立て  
街を観察して集められた「カケラ」を常にそのままの形、具体的な風景にしておくことで、基本的な形や部材の区別による設計順序から自然と外れ、カケラの組み合わせの重なりとして設計されました。それにより、すぐ見れなかったであろう隠らしさを見出せ、新たな風景として現すことができるのではないかと期待しています。  
また設計者として、建築設計が持っているオリーに懐疑的になることを、カケラが支えてくれています。



#### 設計概要

所在地 / 兵庫県淡路市久留麻  
主要用途 / 店舗兼住宅  
家族構成 / 夫婦

設計 板坂留五

構造 軽量鉄骨造（ハウス SA）  
+木造小屋組  
基礎 ベタ基礎+布基礎

#### 規模

階数 地上 2 階  
軒高  
最高高さ  
敷地面積 698.84m<sup>2</sup>  
(旗竿敷地 38.57m<sup>2</sup> 含む)  
建築面積 156.1m<sup>2</sup>  
(建蔽率 22% 許容 70%)  
延床面積 180.2m<sup>2</sup>  
(建蔽率 26% 許容 70%)  
1 階 156.1m<sup>2</sup> 2 階 24.1m<sup>2</sup>

工程（予定）  
設計期間 2017.4 ~ 2018.8  
工事期間 2018.9 ~ 2019.3

敷地条件  
地域地区 指定なし  
道路幅員 南西 3.5m

外部仕上げ  
屋根 / 透明ガラス t=6 (ハウス SA : 大仙), 株瓦葺  
外壁 / 商業系サイディング t=14 (MDX140 : ニチハ),  
透明ガラス t=6 (ハウス SA : 大仙)  
開口部 / アルミミッシュ (ハウス SA : 大仙), アルミサッシ (住宅用), 木製サッシ (制作)

内部仕上げ  
床 (店舗・中庭) / コンクリート, インターロッキング  
ブロック塗装 馬踏み目地  
床 (住居) / フローリング



	諸室名	面積(m <sup>2</sup> )
住居	廊間・台所	47.5
	浴室	4.8
	主寝室（母・父）	13.6
	納戸	12.7
	エントランス	6.3
小計	84.9	
店舗	ディスプレイ	22.8
	試着室	2.9
	カウンター	6.2
	バックヤード	8.9
	台所2	2.0
小計	42.8	
共用部	宿室	10.5
	バスルーム	2.6
	小計	13.1
中庭	39.4	
延べ合計	180.2	



